

(仮称) 第3期すくすく大分っ子プラン（案）の市民意見公募で寄せられた意見とそれに対する本市の考え方について

1. 受付期間 令和6年12月13日（金）～令和7年1月14日（火）

2. 受付人数 7人

3. 意見総数 10件 ※寄せられた意見については要約しております。

No.	意見	市の考え方
1	若い人に限らず晩婚化による影響が大きいと思います。例えば50歳で結婚して子どもを授かりたいと考えたときに子どもが小学生のうちに定年になってしまいます。となると子どもを授かることを諦めてしまいます。併せてマイホームを購入した場合のローン返済も障害になってしまいます。教育費用だけではなく多様に経済的な補助があれば安心して子どもを授かり育てることができると思います。	少子化対策は喫緊の課題であり、子育てに係る経済的負担の軽減については、継続して行う必要があることから、本プランにおきましても、目標10基本施策④経済的支援を掲げ取組を進めているところでです。 今後につきましても、いただいたご意見を参考に、施策を推進してまいります。
2	人口減少と障がい児の増加、ひとり親家庭の幼児たちの支援を真剣に考えることが、プランの目指す姿「誰もが安心して子どもを産み育てることができ、すべての子どもがすこやかに育つことができる大分市」になると思います。	いただいたご意見を参考に、本プランを推進し、「誰もが安心して子どもを産み育てることができ、すべての子どもがすこやかに育つことができる大分市」を目指してまいります。
3	本当に困っている家庭や施設の声を聞いて欲しいです。何に困っていて、どんな支援が欲しいと思っているのかなど、もう机上の空論の時代ではなくなりました。生の声を聞いて頂き、行政、家庭、学校や幼児教育施設、特別支援学校の連携を強くして頂かなければ、どんなにいいプランであっても、「安心して産み育てる」「すべての子ども」にとって、プラスにはならない計画になってしまうと思います。現実を受け止めて欲しいと切に願います。	施策の推進に当たっては、支援を必要とする家庭のニーズの把握に努めるとともに、家庭を取り巻く様々な関係機関との連携を図る中で、適切な支援を行ってまいります。

No.	意見	市の考え方
4	<p>小中学校や幼児教育における給食費の無償化を実施する市町村が拡大しています。子育て家庭を支援するため、国や県へ財政支援を要請していくだけのは構いませんが、国や県の支援を待っていては、他の市町村の子育て支援施策に遅れをとってしまいます。大分市でも急速に少子化が進んでいるため、市の責任で、市独自の施策として早急に給食費の無償化を実施すべきです。また、未納や回収不能となっている給食費はどの程度あるのでしょうか。これらの債権管理等にどの程度費用がかかっているのでしょうか。無償化により、これらの債権管理に要する費用が不用となる副次的効果も期待できます。</p> <p>他の市町村に劣らない子育て支援施策の充実に向けて、市の責任で市独自の施策として、給食費の無償化の早急な実施をお願いします。</p>	<p>市独自の施策として、市立中学校（義務教育学校の後期課程を含む）に在籍する生徒の給食費を令和5年度3学期給食提供分から無償化しております。市立小学校の児童の給食費無償化につきましては、さらなる財源確保が大きな課題となっておりますことから、財源の確保に努めるとともに、国の動向を注視してまいりたいと考えております。</p> <p>また、保育・幼児教育施設における給食費につきましては、保育施設を利用しない在宅で子育てる世帯でも生じる費用でありますことから、保育施設を利用する保護者については実費負担を求めているところです。給食費の無償化につきましては、多額の費用が必要となりますことから、国や県、他都市の取組状況を踏まえ事業の実施について判断してまいります。</p>
5	<p>こども達は私達の宝です。しかしながら、現場の声を聴くに、こども達の育ちが 10 年毎の世代で大きく変わってきており、特にデジタルで育った世代が保護者となってきた今。受動的で課題が複雑化しています。それに準じて発達障がいの診断数も右肩上がりと感じますが、先ずは早期発見(乳幼児健診の強化と 5 歳児健診の機会確保)、早期療育＆保護者が学べる機会を確保できることが、市民全体の将来的な幸せの総量を増していくけると考えます。</p> <p>不登校のベースにある課題を正しく見極め、支えられる仕組み作りも必要と考えますので、現場の先生方が正しく学べる機会の提供も、引き続きお力添えいただけますと助かります。</p>	<p>乳幼児健診においては、身体的・精神発達上の遅れ等を早期に発見し、適切な医療等につながるため、医師による診察、保健師・心理相談員等による指導を行っています。また、保護者に対し、月齢・年齢に応じたこどもの発達の目安や遊び等についても情報提供を行っているところです。今後もすべてのこどもが就学までの期間を健やかに過ごし、スムーズに就学を迎えるよう、引き続き乳幼児健診の機能強化を図って参ります。</p> <p>不登校児童生徒への対応につきましては、スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカー等を活用し、学校と福祉部門が連携を図りながら、不登校の理由に応じたアセスメントを行うとともに、「大分市不登校対応マニュアル（改訂版）」等を基に、教職員研修の充実に努めてまいります。</p>

No.	意見	市の考え方
6	離婚後に養育費の支払いをしない親や、妊娠した途端逃げる男性から養育費を給料から差し押さえできる仕組みを作ることで、ひとり親の貧困問題を改善できませんか。	ひとり親家庭の貧困対策については、本市としても重要であると考えていることから、目標9「子どもの貧困の解消に向けた対策の充実」の基本施策①「生活困窮世帯の保護者への支援の充実」においてその取組を進めることとしているところです。 あわせて養育費の確保に関する取組についても、国の施策の動向や他都市の取組状況等を踏まえ、養育費確保の支援の在り方を議論する中で、研究してまいりたいと考えております。
7	気になったのが、就学健診や入学説明会時(強制参加)に子育て講演会をする、という事です。ほとんどは母親が平日昼間に仕事を休んだり下の子を預けたりスケジュールを調整して来ています。一方、男性向けの講座(自由参加)は男性の働き方に合わせて土曜日開催となっています。行政が母親の育児負担を重くする一因を作成してしまうんですか。 事業所に対しても、育児負担の多い女性の在籍率が高い会社(多くは子どもの都合で休まざるを得ない母親同士がカバーし合っている)と、育児負担の軽い男性が多い所(仕事は休めないと言い母親に育児負担を負わせがち)では業務をする上での負担に随分差があります。男性が育児に対する責任と実務を担わない現状を解決しなければ、子どもはすぐ育ちません。	子育て講演会については、多くの保護者が集まる機会を活用した学習の場として、就学前の子どもをもつ全ての保護者を対象とする、就学時健康診断または入学説明会に合わせて実施しています。対象は「保護者」としており、家庭の実情に合わせて参加いただけます。 また、男性の育児参加の促進については、本市といたしましても重要なと考えており、本プランにおきましても「仕事と子育ての両立支援」を目標11として掲げ、事業所向け講座や父親向け子育て教室の開催などの取組を進めることとしているところです。 今後につきましても、いただいたご意見を参考に、施策を推進してまいります。

No.	意見	市の考え方
8	毎年のようにインフルエンザが流行する中で、是非小児のインフルエンザワクチンの費用助成をお願いしたい。特に多子世帯にとっては、2回接種する必要のあるインフルエンザワクチンの経済的負担は重く、そのことが接種をためらわせている要因の一つではないかと思う。ワクチン未接種の子どもがインフルに罹患した場合、入院等につながる例も多いと聞きます。大分市のお子様がすくすく元気に過ごせるよう是非小児のインフルエンザワクチンの費用助成について提案します。	インフルエンザ等の感染症に対する予防接種については、予防接種法に基づき、疾病の発生及び蔓延を予防するために実施しております。小児のインフルエンザにつきましては、現在、任意接種に位置付けられており、本市において助成は行っておりませんが、引き続き、その他の感染症も含め、感染予防、感染拡大防止の対策に努めてまいりたいと考えております。
9	包括的性教育の充実について、長年家庭へ丸投げし続けてきた結果が悲しい事件や被害者を増やす結果になっていると思います。担任や専任教師によるものではなく、性教育認定講師による出前授業を希望します。	大分市立学校における性に関する指導については、児童生徒の実態に応じて全ての学校で計画的・組織的に実施しております。 また、専門家である外部講師を活用した講演会等につきましては、令和6年度は、小中学校26校（小学校15校、中学校11校）で実施するなど拡充しているところです。さらに、性犯罪・性暴力の加害者、被害者、傍観者にならないための「生命（いのち）の安全教育」についても、学校や児童生徒の実情に応じて教職員又は外部講師が実施しております。 今後につきましても、いただいたご意見を参考に、施策を推進してまいります。

No.	意見	市の考え方
10	食の質とは何か、食育で本当に伝えるべき内容を見直していただきたいです。バランスよく食べよう、朝ごはんを食べようはもう聞き流されていませんか。これからの食育は一つ一つの食材に目を向けて、本来のあるべき姿を失ってしまった食品で溢れかえっていることに目を向けさせるべきです。例えば本みりんとみりん風調味料の違いを分かる大人はどれだけいるでしょうか。食費を抑えた結果病気を生み医療費を多く払うことになっていませんか。学校教育は通っているこどもだけでなく保護者も一緒になって学び直せるチャンスの場だと考えます。	食育は、様々な経験を通じて食に関する知識や選択する力を習得し、健全な食生活を実践することができる人間を育てることであり、幅広い視点から食育を推進することが大切と考えております。 今後につきましても、いただいたご意見を参考に、施策を推進してまいります。